



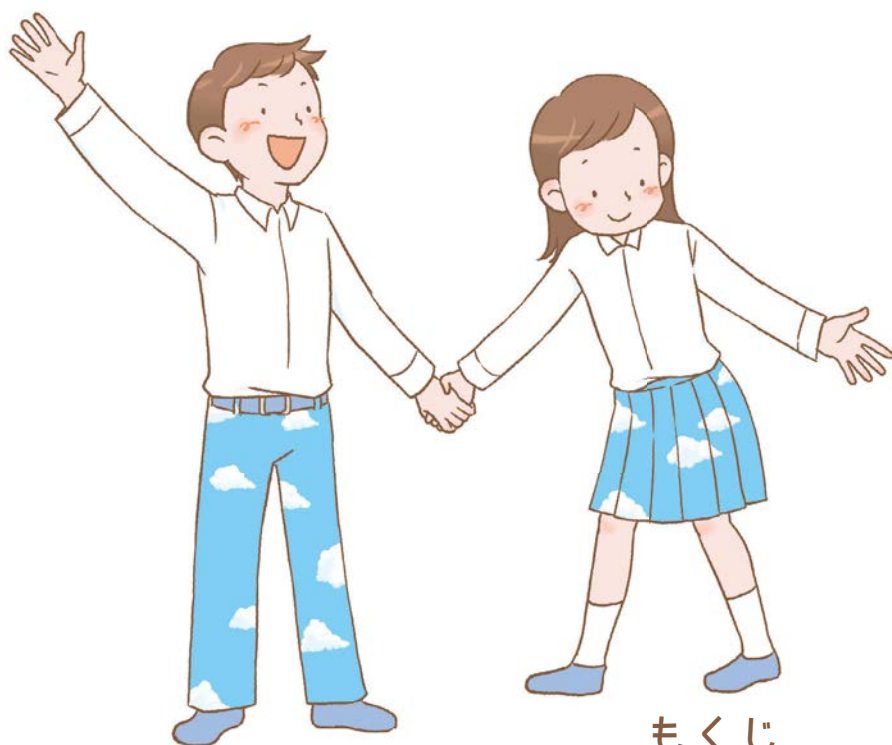
やってみよう！

小中連携をとおした

道徳教育と評価

関西外国語大学

教授 太田 和男



もくじ

- ① 中学校校区で「育てたい子ども像」を共有しよう！
- ② 学校全体の道徳教育で小中連携をしよう！
- ③ 道徳科の授業で小中連携をしよう！
- ④ 道徳科の評価で小中連携をしよう！
- ⑤ 評価の実践例

本資料は、「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

※本資料は、「道徳セミナー」（2017年12月24日開催）での太田和男先生の講演内容「小・中連携を通じた道徳授業の学びと評価について」を再構成してまとめたものです。

日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ！

日文

検索

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

中学校校区で

1 「育てたい子ども像」を共有しよう！

1 道徳教育での小中連携

小、中学校が連携して教育活動を行う小中連携が、今いっそう重要視されてきています。

その背景には、義務教育9年間を見通した計画的かつ継続的な教育課程が求められていることや、いわゆる「中1ギャップ」への対応などがあります。

しかし、その重要性は理解していても、「どうやって実現すればよいのか」、「小中一貫の学校でないと難しいのでは」と思われる先生もいらっしゃるのではないのでしょうか。

そこで今回、提案したいのは、道徳教育での小中連携です。他教科と違って、すべての教職員が「道徳性の育成を目指す」という同じ視点を共有できるので、道徳教育こそ小中連携がしやすいと考えています。

2 横軸・縦軸の連携のために「育てたい子ども像」を共有する

道徳教育で小中連携を進めるには、まず次のことを考えるとよいでしょう。

(1) 横軸と縦軸の連携を意識する

連携には、学校・家庭・地域という横軸の連携と幼・小・中・高という縦軸の連携があり、小中連携はその中核をなすものです。

(2) 中学校校区で「育てたい子ども像」を共有する

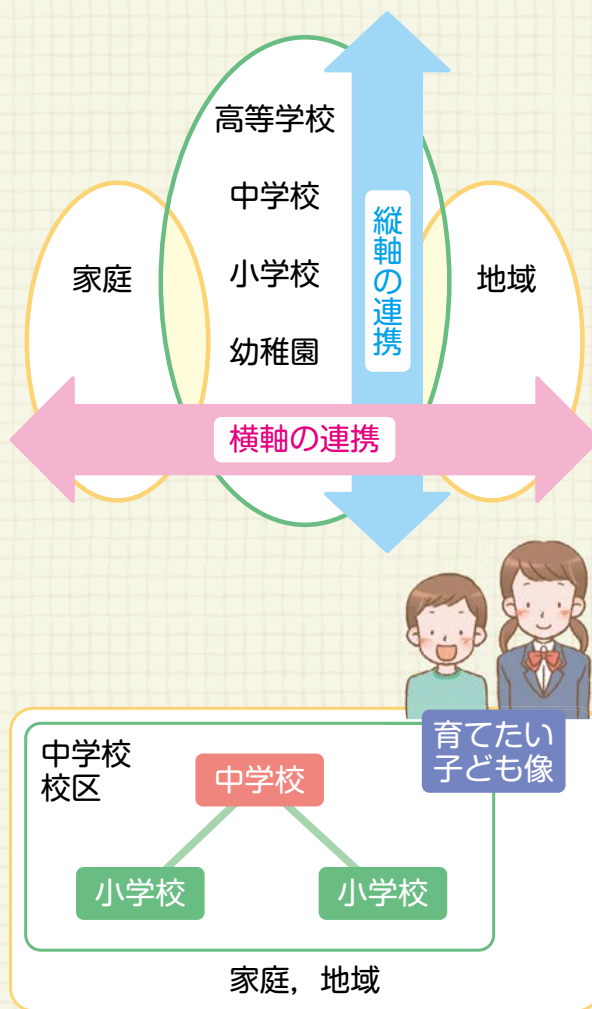
中学校校区（2小1中、3小1中など）を、一つのブロックとして捉えます。その上で、小、中学校間の縦軸で育てたい子ども像を共に描き、学校・家庭・地域の横軸で子どもと一緒に育てるという意識をもつことが大切です。

また、特に縦軸の連携では、「小学校での道徳教育の成果が、どのように中学校に引き継がれ生かされるのか」、「子どもの道徳性の育ちのバトンを、小学校から中学校へどのようにうまく受け渡していくのか」も考慮する必要があります。

小中連携教育…小・中学校が、互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育。

小中一貫教育…小中連携教育のうち、小・中学校が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育。

「子供の発達や学習者の意欲・能力等に応じた柔軟かつ効果的な教育システムの構築について（答申）」平成26年12月中央教育審議会による



セミナーに参加された先生の感想

道徳教育こそ小中連携しやすい、というお話は「確かに！」と感じました。

2

学校全体の道徳教育で 小中連携をしよう！

1 中学校校区で重点内容項目を共有する …

では、具体的にどうやって道徳教育で小中連携に取り組めばよいのでしょうか。

まず取り組みやすいのは、同じ中学校校区の小、中学校で重点化する道徳の内容項目を意図的に共有することです。すべての項目を共通にすることは難しいでしょうから、例えば2～3項目は共通のものにして、あとは発達の段階に応じて各学年で重点化する内容項目を設定するとよいでしょう。

2 9年間をとおした取組を決める ……………

ある一つの観点で継続的な取組をする場合、そのスパンが長ければ長いほどその効果が上がります。

例えば「規範意識」の育成に徹底して取り組むとします。「人の話をしっかり聞く」ということを中学校3年間で行うだけでも子どもは変わりますが、小学校から中学校の9年間をとおして「どんなときでも人の話をしっかり聞く」という教育に取り組めば、かなりの成果が得られるでしょう。

何か一つでも9年間をとおした取組を決めることができれば、実行しやすいですし、家庭や地域にも説明しやすくなります。

3 児童会、生徒会と一体となった 取組の例 ……………

一例を紹介します。まず、中学校校区の小学校の児童会役員と中学校の生徒会役員を集めた会を開催し、共有する重点内容項目を踏まえ、一緒に自分たちが大切にしたいことを考えさせます。次に、子どもたちが考えたことをポスターにします。そして、そのポスターを家庭や地域に配布し、掲示板などに貼り出します。

そうすることで、中学校校区としてどんな道徳教育をするのかを発信し、学校・家庭・地域で子どもと一緒に育てる横軸の連携につなげることができます。



中学校校区で共に描いた
育てたい子ども像

重点化する内容項目の
共有

9年間をとおした取組の
設定

家庭、地域との共有



セミナーに参加された先生の感想

中学校校区で、重点化する内容項目を意図的に共有するというお話は目からウロコでした。

3

道徳科の授業で 小中連携をしよう！

1 小，中学校でお互いの授業を見学する

道徳科の授業では、どのような小中連携ができるでしょうか。

まずは、小，中学校の先生がお互いに授業を公開し、見学し合うとよいでしょう。ただ、公開が1日だけだと都合がつけにくくなるため、おすすめは自由に見学できる授業公開月間を設けることです。さらに、可能であれば授業研を行うことで、同じ中学校校区の先生方の交流にもなります。

特に、中学校の先生にとっては、小学校の先生の授業（きめ細かな指導や、児童の活動型の学習を多く取り入れている授業）は、大変参考になります。また、子どもたちが小学校のときどのように学習してきたかもわかる（使用教材も含め）ので、今後の授業に生かすこともできます。

2 中学校でも生かせる小学校のペア学習

小学校での道徳科の授業では、ペア学習、グループ学習を多く取り入れています。

よく行われているのは、読み物教材等を活用して、その教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技（ロールプレイング）など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習です。

中学校では、子どもが恥ずかしがって演技しないこともあります。そのようなときはペア学習が有効です。

英語の授業などで慣れているペアトークの形式を道徳科の授業にも取り入れることで、中学生でも自然に体験的な学習をすることができます。



中学校でも生かせるペア学習の例

読み物教材「最後のおくり物」

（『私たちの道徳 小学校五・六年』掲載）

- ・ペアになって登場人物のロベーターとジョルジュじいさんの役を割り振り、お互いに「 」のセリフだけを読み上げていく。
- ・最後まで読んだら役を交替し、もう一度セリフを読み上げていく。



※小，中学校合同の授業研の素材としても有用です。

セミナーに参加された先生の感想

ペアでセリフを読み合うだけでも心情を理解できることがわかり、すぐ実践できそうです。



3 「中1ギャップ」を防ぐための 出前授業と合同授業

中学校校区の小学校同士、小小連携の取組としては、中学校の先生による道徳科の出前授業が挙げられます。道徳科の場合、小学校高学年～中学校で活用できる読み物教材（「ロレンゾの友達」など）があるので、他教科以上に出前授業がしやすいでしょう。授業自体を受けもつことが難しくければ、小学校の授業にゲストティーチャーとして参加したり、TT授業を行ったりしてもよいです。

また中学1年生と小学6年生、さらに他校の小学6年生合同で道徳科の授業を行うこともできます。

これらによって、中学校生活への戸惑いを取り除き、好ましい人間関係づくりを援助することができ、「中1ギャップ」の防止に役立つと考えられます。

4 ローテーション道徳と学年道徳

このほか、道徳科で有効な授業形態を紹介します。

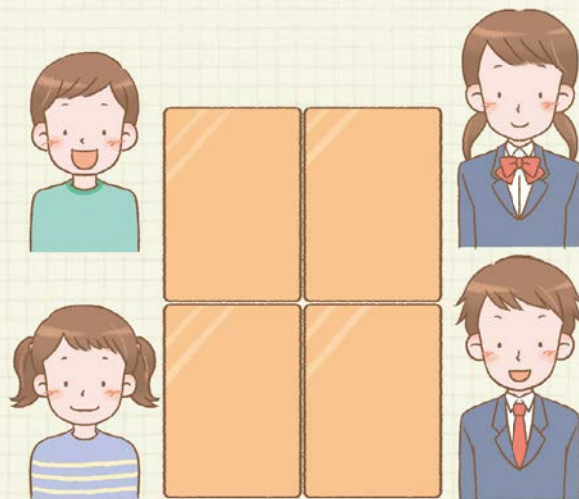
(1) ローテーション道徳

年に数回、その学年の先生が交代で学年の全学級を回って道徳科の授業を行う取組のことです。その間、先生はそれぞれ同じ教材を使用し続けます。

何度も同じ教材で授業を行うことで、先生の授業力の向上につながり、また中学校の場合は先生の専門教科や得意分野などを生かした道徳科の授業を展開できると考えられます。

(2) 学年道徳

学年集会のように全学級が体育館などに集まり、その学年の先生全体で道徳科の授業を行います。子どもにとっては、普段は接しない他学級の意見が聞けますし、先生にとっては、事前の打ち合わせ（学年会）が、そのまま授業の研修になります。



小、中学校合同の授業では、小学生には中学生への憧れや期待を育み、中学生には（班でファシリテーター役を務めることなどで）自己有用感を育むことができます。

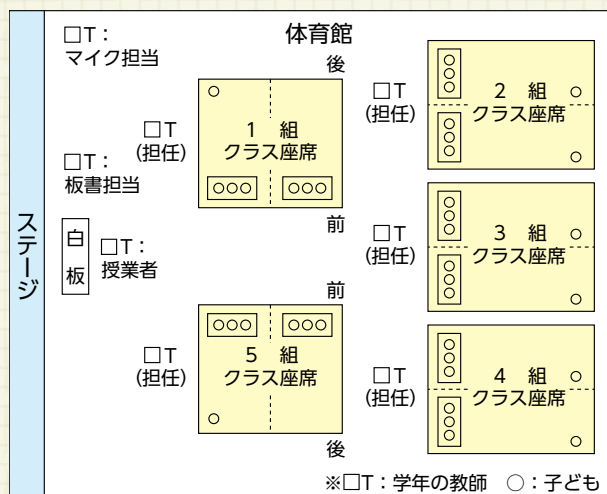
ローテーション道徳の例

1学年3クラス、担任3名、副担任2名の学年の場合

	1組	2組	3組
1組担任 A	1週目 A	B	C
2組担任 B	2週目 D	A	B
3組担任 C	3週目 E	C	A
副担任 D	4週目 B	E	D
副担任 E	5週目 C	D	E

※教師はそれぞれ A～E の教材を使用し続ける

学年道徳の例



4

道徳科の評価で 小中連携をしよう！

1 小，中学校で評価の共通認識をもつ ……

小中連携は，道徳科の評価においても重要です。なぜなら，同じ中学校校区の小，中学校に通う兄弟・姉妹で評価（通知表での表記等も含め）が違うと，児童・生徒・保護者が戸惑うからです。

小，中学校で評価についての共通認識をもつためには，合同研修を実施するとよいでしょう。

2 小中合同研修会の例 ……

合同研修会の進め方の一例を紹介します。

●道徳教育推進教師会議（第1回）

- ・今後の合同研修会に向けて打ち合わせる。

◆合同研修会（第1回）

- ・講師を招き，道徳教育における評価（文部科学省，教育委員会の方針）について研修する。

◆合同研修会（第2回）

- ・各校で，評価についてどのように考え，取り組もうとしているか（評価の内容，学期ごとか通年か）を共有する。
- ・各校の通知表での表記等を共有する。

●道徳教育推進教師会議（第2回）

- ・小中で統一して取り組むことを確認する。

□各校での研修会

- ・統一する内容を確認する。

…以降の研修会開催は中学校校区で判断する。

3 道徳科では「プラス評価」を 大切にする ……

道徳科の評価で大切なのは，子どもの足りないところから出発するのではないということです。子どものよいところを伸ばしていくプラス評価を心がけましょう。子どもたちが「今後も道徳科で学んでいきたい」と思えるような評価を目指したいものです。

道徳科の評価の基本的な考え方

「児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し，指導に生かすよう努める必要がある。ただし，数値などによる評価は行わないものとする。」

- ・数値ではなく記述式評価
- ・個々の内容項目ごとではなく，大きくくり
- ・他の児童との比較による相対評価や，目標に対してどの程度達成できたかという絶対評価ではない
- ・児童生徒の成長を積極的に受け止め，励ます個人内評価
- ・学期ごとや1年間など一定のまとまりの中で見取る
- ・学習活動を踏まえ，観察や会話，作文やノートなどの記述，質問紙などから見取る
- ・調査書に記載せず，入学者選抜に活用しない

児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取るポイント例

（発言や感想文などから）

- ・一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか
（道徳的価値をさまざまな側面から広く見られるようになった，自分と違う意見や立場を理解しようとしていたなど）
- ・道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか
（学習した道徳の問題を自分事としてとらえていた，自分の生活や生き方の問題として考えていたなど）

『「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）』平成28年7月道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議による



セミナーに参加された先生の感想
……
評価の書き方はすぐ使える上に，理にかなっていると感じました。

5

評価の実践例

1 ワークシートを活用した評価の例

以前の勤務校で研究していた評価の方法を紹介します。毎回の授業では、定型のワークシートを使用し、最下段に設けた振り返り欄で子どもの自己評価を図っていました。

大切なのは、子どもの自己評価を鑑みて、道徳科の授業評価を行うことです。つまり、子ども自身がよく学んだと考えている時間の感想を取り上げ、授業での発言・観察等を踏まえて子どもの道徳性の育みに関する評価をします。また、文章を書くのが苦手な子どもでも、振り返り欄の記述から面談による聞き取りへとつなげることができます。

2 指導要録、通知表に記述する際の注意点

記述する際は、道徳性そのものを評価するように書かないこと（「思いやりの念が高まった」などとせず、「～とノートに書いていた」など観察可能なことを書く）、学習状況や成長の様子の例として子どもの感想文などを扱う（個々の内容項目ごとではなく大きくくりの評価のため）ことに注意が必要です。

『道徳科の授業ワークシート』

学校 氏名 _____

1. 「 _____ 」とは、

(自分は、こう考える) (他の生徒の意見を聞いて)

2. 今日の授業の感想を書こう。

★今日の道徳の授業を振り返って★	たいへん	—	ふつう	—	まったく
共感・感動したか	5	4	3	2	1
いろいろな考えがありましたか	5	4	3	2	1
今後の生活に活かしていこうと思えますか	5	4	3	2	1
資料はよかったか	5	4	3	2	1

ワークシートなどの記述から通知表への記載までの流れ



毎時間、ワークシートなどで子どもの感想を蓄積する

学期末などに感想を見返し、「学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取るポイント例」を参考に、子どもの自己評価が高い感想文をピックアップする

子どもの感想文

何か一つでも行動することができたら、周りの空気がグッとよくなり、その空間にいる人たちほとんどが、あたたかくほっこりした気持ちになると思った。自分も周りの人のことを考えて、いい空気の中にいられるようにしたいと思う。

通知表や指導要録の記述例

- 授業の感想から主人公に共感し、自分なりに考えを深めています。特に「 _____ 」の感想には…
 - 積極的に自分の意見を発言する姿勢がよく見られました。特に「 _____ 」の学習では…
 - 教材のテーマを広い視点で捉え、具体的に考えることが得意でした。特に「 _____ 」の感想には…
 - 授業を聞く姿勢、発言や感想文から毎回の授業で主題をよく考えていることがわかります。…
 - 授業の教材に共感しながら自分の考えを深めている姿勢がよく見られました。…
 - 授業中、仲間の意見や思いと自分の感情の源となる価値観を見つめています。…
- 『考え、議論する道徳を目指して』京都市教育委員会による

通知表への記載例

授業の感想から主人公に共感し、自分なりに考えを深めています。特に『塩むすび』の感想には、「何か一つでも行動することができたら、周りの空気がグッとよくなり、その空間にいる人たちほとんどが、あたたかくほっこりした気持ちになると思った。自分も周りの人のことを考えて、いい空気の中にいられるようにしたいと思う」という意見を述べていました。

3 教育活動全体の道徳教育での評価 ……

子どもの道徳性そのものは評価することが難しいため、学校の教育活動全体の道徳教育での評価として、通知表の「行動の記録」を活用した評価例の紹介です。

(1) 各教科と道徳とを関連付けた資料を作成

いわゆる道徳教育の全体計画「別葉」とは別に、各教科等の単元のねらいを押さえつつ、学習内容を豊かな人間形成・人格形成という視点から捉えて「各教科の単元と道徳の内容項目との関連」をまとめて冊子にしました。これによって、各教科等でどのような道徳的行為を見取れるかを明確にしました。

(2) 校務支援システムの「いいとこみつけ」

全教員（主に学年教員）が、各教科等の時間で子どもの様子を、校務支援システムの子どもの個人ページに記入し、「いいとこみつけ」を蓄積しました。道徳の評価は、プラス評価が大切です。全教員で子どもの「いいとこ」を見つけ、蓄積した内容を、学期末や年度末に「行動の記録」に記入することで、学校の教育活動全体の道徳教育での評価とすることができるのではないのでしょうか。

さいごに

これからの学校が教育課程の改善等を実現し、複雑化・多様化した課題を解決していくためには、「チームとしての学校」を作り上げていくことが大切であるといわれています。

道徳教育を推進するには、小、中学校が連携した「チーム学校」での取組が、今求められていますでしょう。



関西外国語大学 教授 太田 和男

京都市立中学校教諭、学校指導課・京都市総合教育センター指導室指導主事、京都市立中学校で教頭・校長を経て現職。京都市や枚方市等で研修会の講師を務め、大学では後進の育成に努めている。

各教科の単元と道徳の内容項目との関連

A 主として自分自身に関すること	
(1)【自主、自律、自由と責任】 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。	
学校行事・生徒会活動 <ul style="list-style-type: none"> ・球技大会 一学校行事の中で、自身の役割を自覚し、誠実な行動ができる。 ・合唱コンクール 一自らの意志で自らを律し、他者に対して誠実な行動が実行できる。 ・体育大会 一体育祭において、誠実に実行してその結果に責任をもつ。 ・文化祭 一文化祭において、誠実に実行してその結果に責任をもつ。 ・チャレンジ体験 一職場の人に対して、自身の役割を自覚し、誠実な行動ができる。 ・3年生を送る会 一3年生を送る会において、自身の役割を自覚し、誠実な行動ができる。 	
各教科 国語 <ul style="list-style-type: none"> ・(3年)「富樫舟」 一身の人物の生き方や考え方に学ぶことで、人間としての誇りをもった責任ある行動をとうとうとする。 ・(3年)「ネット時代のコペルニクス」 一情報社会の中で、誠実に知識を組み上げ、思考を組み立てる大切さを理解することで、自分の行った行動に対して責任を持たなければならないことの意味を知る。 数学 <ul style="list-style-type: none"> ・(1年)資料の活用 一身の周りの課題などを解決するために必要な資料を収集・整理について学ぶことを通して、何が正しく、何が誤りであるかを自分で判断することの大切さを知る。 ・(3年)標本調査 一身の周りの課題のためにどのような標本調査をすればよいかを考えることを通して、何が正しく、何が誤りであるかを自分で判断することの大切さを知る。 	

校務支援システムでの「いいとこみつけ」(京都市)



「いいとこみつけ」の例

プリントを後ろから集めてくるときに、いつもきちんと用紙を揃えて、向きを変えて手渡してくれます。ちょっとした気遣いですが、うれしいですね。ありがとう。

やってみよう！小中連携をととした道徳教育と評価

日文 教授用資料

平成30年(2018年)3月2日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社

〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5

TEL:06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD 33389

日本文教出版 株式会社
<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
 TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
 TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
 TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
 TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
 TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690